

自立援助ホーム・子どもシェルター  
まなび応援金

2021年度  
事業  
報告書



 朝日新聞厚生文化事業団

本部(東京)  
〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2  
TEL 03-5540-7446 FAX 03-5565-1643

西部事務所  
〒812-8511 福岡市博多区博多駅前2-1-1  
TEL 092-477-6930 FAX 092-477-6931

大阪事務所  
〒530-8211 大阪市北区中之島2-3-18  
TEL 06-6201-8008 FAX 06-6231-3004

名古屋事務所  
〒460-8488 名古屋市中区栄1-3-3  
TEL 052-221-0307 FAX 052-221-5453

主催  朝日新聞厚生文化事業団

協力 社会福祉法人 カリヨン子どもセンター

協賛 原田積善会

## 御 礼

愛されるはずの人に傷つけられる虐待。苦しんだ子どもたちが、トラウマなどから回復し、人生を前向きに切り開けるようになるまでには、物心両面でさまざまなサポートと長い時間が必要だと言われています。

十分な支援が届かないままに10代後半になった子どもたちが暮らすのが、自立援助ホームや子どもシェルターです。15歳を超え、家庭や他の社会的養護施設に居場所がなく、「自立」を強いられた子どもたち。7割以上に虐待を受けた過去があり、勉強どころではない環境で育ったことで最終学歴が中卒、高校中退の子どもが多くいます。学歴の大切さは分かっていますが、日々の生活費や、児童福祉の対象外となった後に備えるため、働くことを優先せざるを得ない現状があります。

この子どもたちに、学ぶことを通して自信を持ち、人生を自分で選べる力があることを知ってほしい。私たちはそう願い、2020年5月に、高校就学や資格取得などを支援する「まなび応援金」をスタートしました。

2年目を迎える2021年度はのべ215人のみなさまから総額475万4000円のご寄付をお寄せいただき、2022年6月10日時点で、「学びたい」と努力する376人に総額4218万6573円をお届けすることができました(手続き中を含む)。誠にありがとうございました。

逆境に立たされ、それでも未来へ踏み出そうという子どもたちが当たり前を支えられる社会の実現のために、今後とも、みなさまのご支援をいただければ幸いです。

結びになりますが、事務局としてご尽力くださっている社会福祉法人カリヨン子どもセンターのみなさまに心から感謝を申し上げます。

朝日新聞厚生文化事業団



## 自立援助ホーム・子どもシェルターとは

さまざまな理由から親と生活することが難しい子どもたちがいます。そうした子どもたちを公的責任として社会的に養育・保護するとともに、養育に困難を抱える家庭への支援を行うことを「社会的養護」といいます。

現在、約4万2千人の子どもたちが社会的養護のもとに暮らしており、受け入れ先は子どもの年齢や状況によって異なります。10代後半の子どもを受け入れ先として「自立援助ホーム」や「子どもシェルター」があります。虐待によって家庭で安全に暮らせなくなった子どもや、児童養護施設を巣立った後に仕事につまずいて生活する場所を失った子どもなどを受け入れています。



厚生労働省(2022年)「社会的養護の推進に向けて」、子どもシェルター全国ネット会議HPを元に作成

### 自立援助ホームとは

何らかの理由で家庭にいらなくなり、働かざるを得なくなった子どもたちが安心して暮らせる住まいを提供しています。ここでの暮らしを通して大人との信頼関係や社会性を身につけ、自立できるように援助を行います。児童福祉法に基づく児童自立生活援助事業として、社会福祉法人やNPO法人などが運営しています。

利用者：15～20歳(状況によって22歳まで)  
利用期間：6ヶ月～2年ほど  
定員：6人ほど  
施設数：217カ所

(厚生労働省(2022年)「社会的養護の推進に向けて」参照)



### 子どもシェルターとは

緊急で居場所を必要とする子どもが、一時的に生活する小規模型の施設です。入居した子ども一人ひとりに担当の弁護士がついて支援します。自立援助ホームと同じく、社会福祉法人やNPO法人などが運営しています。

利用者：10代後半～22歳を想定  
利用期間：2週間～3ヵ月ほど  
定員：6人ほど  
施設運営団体：約20団体

(子どもシェルター全国ネットワーク会議のHP参照)



## 自立援助ホーム・子どもシェルターまなび応援金とは

まなび応援金は、自立援助ホームや子どもシェルターで暮らす子どもたちの幸せのために、就学・就労・自立に寄与することを目的とした応援プロジェクトです。朝日新聞厚生文化事業団が主催し、社会福祉法人カリヨン子どもセンターの協力のもと、2020年春にスタートしました。

幼いころから暴力や育児放棄などにより過酷な成育環境に置かれ、深く傷つきながら自立援助ホームや子どもシェルターにたどりつく若者がいます。そうした若者たちは中学卒業が高校中退で社会に出ることが多く、経済的な事情で高校卒業や資格取得が難しい状況にあります。本プロジェクトは、彼・彼女らが「まなび」を通じて自分の未来を選び取る力を育んでほしいと願い、返済不要の2種類の助成(就学金・資格取得金)を行います。

### 就学金 高校などで学ぶ努力を応援

- 高校(全日制、定時制、通信制)などで学ぶための本人の努力を後押しすることが趣旨。
- 4～9月を前期、10～3月を後期とする。
- 6か月ごとに12万円を給付。返済不要。
- 現在学校に在籍しているか、申し込み年の3月末に学校を卒業した人。
- 国籍は問わない。



### 資格取得金 各種資格を取得する努力を応援

- 自立に向けて各種資格を取得する努力を後押しするために費用の実費を給付する。
- 資格取得に向けて必要な費用(授業料、教科書代、備品、交通費など)の実費を以下の基準で給付。
  - (ア) 資格を取得できた場合は、かかった費用の全額(上限15万円)を給付。
  - (イ) 資格を取得できなかった場合は費用の7割(上限10万円)を給付。
- 対象とする資格は公的機関が認定するもの、または運営委員会が制度の趣旨に鑑みて認めたもの。
  - 例：高校卒業程度認定試験、運転免許、英語検定など。

対象となるのは、自立援助ホームや子どもシェルターで暮らしている方と、暮らした経験のある29歳までの方です。在籍・出身のホームを通じて集まった申し込みは運営委員会によって審議されます。運営委員会は全国自立援助ホーム協議会、子どもシェルター全国ネットワーク会議、社会的養護者出身者が運営する支援団体などによって構成されています。

2021年度前期 募集4～9月、内定通知10月、送金11月  
2021年度後期 募集10～3月、内定通知4月、送金5月

## 2021年度の給付報告

まなび応援金運営委員会の審議の結果、2021年度には計376人に総額4218万6573円を給付しました。内訳は以下の通りです。応援金はみなさまのご寄付と朝日新聞厚生文化事業団が拠出しています。

※2022年6月10日時点で手続き中を含む。

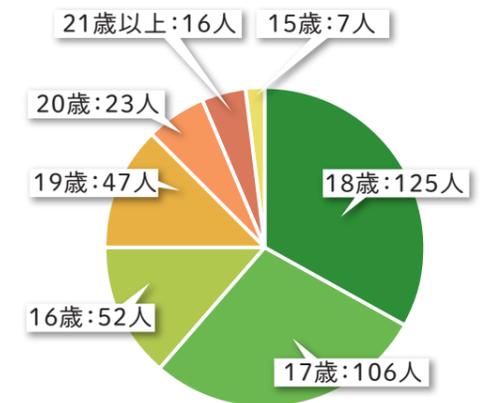
### 就学金(高校などで学ぶ努力を応援)

高校などに在籍する342人の子どもたちに対し、計3820万円の就学金を給付いたしました。在籍する学校は、高等学校全日制、通信制、定時制(夜間など)、高等専修学校です。

### 資格取得金(各種資格を取得する努力を応援)

資格取得を目指す34人に対し、計398万6573円の資格取得金を給付しました。資格の内容は、高等学校卒業程度認定試験、普通自動車第一種運転免許、溶接技能者、TOEFL iBT、介護関係などです。

応援金を受け取った子どもたちの年齢は、18歳が33%(125人)と最も多く、未成年の割合が9割を占めています。まなび応援金の交付は、申し込みと同様に自立援助ホームや子どもシェルターを通じて行われ、ホームから応募者に届けられています。ホームと受給者には、給付金の使い道や生活状況などの報告をしてもらっています。



### ご寄付について

まなび応援金を多くの方々に知っていただき、ご寄付をお願いするため、朝日新聞が運営するウェブサイト「A-port(エーポート)」を利用しました。サイトを通じたクラウドファンディングによるご寄付は383万4000円(207件)。事業団へ直接いただいたご寄付92万円(8件)とあわせ、総額は457万4000円になりました。ご理解とご協力に感謝し、厚く御礼申し上げます。内訳は以下の通りです。

ご寄付の種別	寄付総額	寄付件数
A-port(クラウドファンディング)	3,834,000円	207件
朝日新聞厚生文化事業団への直接のご寄付	920,000円	8件

合計 4,754,000円 215件

警察官を  
目指す



いろいろと迷った進路でしたが、「人を守りたい」という気持ちから、警察官を目指すことにしました。とても厳しい世界だということは承知していますが、今まで生活を助けてくれた方々を、僕が守ってあげるように、強くたくましい警察官になりたいと思っています。

(男性・18歳)

苦しむ人を  
助けたい



大学進学を目指し、頑張っアルバイトと学業を両立させています。将来の夢は弁護士になることです。社会的に弱い立場や不当な権力の行使に苦しんでいる人たちを、法を用いて助けたいと思ったからです。

(男性・17歳)

頑張ります！



将来は一時保護所の職員になることを目指しています。今までつらい経験をしてきました。同じような子どもたちの力になりたいと考えています。経験しなければわからない思いなどを聴き、気持ちを楽にしてあげたいと思っています。目標を実現するために、学校とアルバイトを頑張ります。

(女性・16歳)

応援

しています！

応援しています！ 自分の人生を、自分の足で歩もうとする子どもたちのお手伝いになれば、幸いです。子どもたちが人生を切りひらき、幸せになってくれることを祈っています。

(応援者・高知県)



みなさんが一生懸命頑張っている姿は、必ず誰かがどこかで見ていて、応援してくれています。今は大変でも、報われる時が訪れることを信じて、今できることに、できる範囲で力を注いで下さい。

(応援者・埼玉県)



応援しています！ ほんのわずかですが、みなさまの希望がかない、目標に向けた道が少しでも進みやすいものになることを祈っています。私も多くの人たちに助けられて、今があります。

(応援者・千葉県)



みなさまのご多幸を心からお祈りします。ささやかではありますが、みなさんを応援できることが私の幸せです。健康第一にお過ごし下さい。

(応援者・神奈川県)



応援しています！ せっかく、お父さんとお母さんが生んでくれたのですから、事情はどうあれ、生きて下さい。応援してくれる人が必ずいます。同じ仲間もいます

(応援者・東京都)



自分も虐待を受けた当事者です。親も被虐待児として育ったことを後で知りました。虐待の連鎖を断ち切るために、前に進む力を得ることが大切です。あなたは愛されています。あなたは尊い存在です。

(応援者・福島県)



# まなび応援金 それぞれの

# 思い

申し込んだ子どもたち、支える施設の人々、  
応援してくれた方々の思いの一部を紹介します。

※掲載内容は申込者の個人情報が特定されないように一部編集しています。  
年齢は申し込み時点です。

夢は立派な  
保育士です！



保育士を目指し、アルバイトをしながら単  
位制の高校に通っています。専門学校に進  
むためにコツコツとお金を貯めるのは、少  
しずつ自分の夢が近づくようでうれしいで  
す。大変ですが、立派な保育士になれるよ  
う日々努力していきます。よろしく願い  
します。

(女性・19歳)

高校で施設に入ってきた子どもがいます。保育  
士になり、自分と同じような境遇の子の力になり  
たいと考えていましたが、経済的に進学をあきら  
めざるを得ない状況でした。しかし、まなび  
応援金を知り、改めて進学を決意しました。勉  
強、アルバイトと努力する子どもの夢の実現のた  
め、支援をお願いします。

(自立援助ホーム・ホーム長)



母親からの虐待と過干渉で入所してきた子ども  
がいます。中卒で、派遣の仕事しながら専門  
学校に入り、美容師免許を取得。現在、高校  
卒業の資格も取りたいと、通信制高校で学んで  
います。来年度に退所予定ですが、本人の負  
担はかなりのものです。ご支援をお願いします。

(自立援助ホーム・ホーム長)

毎日朝早く出勤し、夜には学校に通っ  
ている子どもがいます。遅い時間に疲れ  
切って帰宅する生活ですが、勉強の時  
間を捻出し、テストでは毎回上位の成  
績をおさめています。本人は進学も視  
野に入れているようです。勤務態度もよ  
く、休まず仕事を続けられ、成長を感  
じています。今後もこの子が、経済上の  
心配なく、学業に励むことができるよう、  
まなび応援金を希望します。

(自立援助ホーム・ホーム長)



# 子どもの学びと自立を支える「応援金」

自立援助ホーム「清周寮」  
寮長 松本耕三さん

(インタビュー・構成：河井 健)



虐待などで家庭にいられない原則15歳から20歳までの子どもの居場所が「自立援助ホーム」です。現在、全国200前後のホームで700～800人が暮らしています。その一つが東京都足立区の「清周寮」。寮長で全国自立援助ホーム協議会副会長でもある松本耕三さん(53)に、施設での生活や「まなび応援金」の役割などについてうかがいました。

「自立援助ホーム」は一般にはあまりなじみがないと思います。どんな施設なのでしょう？

義務教育終了後、家庭や児童養護施設などを出た子どもたちが暮らしています。ネグレクト(育児放棄)や暴力、女子では継父らに性的搾取されるなどの虐待を受けてきた子どもたちが目立ちます。事業の実施主体は都道府県・政令指定都市ですが、運営は半数以上がNPO法人、ほかに社会福祉法人なども担っています。

清周寮も社会福祉法人青少年福祉センター(足立区)が営んでいますね。

はい。センターの前身は1958年に創設されました。戦後、18歳で旧満州(現在の中国東北部)から引き揚げてきた故・長谷場夏雄先生が創始者です。当時、多くの戦災孤児らは、義務教育を終えると住み込みで就職していました。ですから、仕事を失うと住む場所もなくなってしまう。クリスチャンでもあった長谷場先生が、都内の自分のアパートで子ども



清周寮

と共同生活を始めたのがセンターの始まりと聞いています。清周寮は1974年に設立されました。

半世紀近い歴史があるんですね。どんな子どもたちが生活しているのでしょうか？

清周寮は定員15人で女子専用です。今年1月時点で16～21歳の14人が暮らし、うち3人は働きながら通信制高校などに通っています。寮長以下スタッフは6人。全員通いですが、24時間365日、必ず最低1人は寮にとどまるようになっています。

「自立した女性を育む」という運営方針を掲げていると伺いました。

虐待など厳しい家庭環境で育った女子の中には、「男性に頼って生きていけばいい」と考えている子もいます。そうではなく、経済的にも社会的にも、自分の足で立てるようになってほしいのです。恋愛も、望めば結婚もしてもらいたい。希望を持ち、「生きていて良かったな、楽しいな」と思える人生を歩んでほしいと願っています。

寮生活は本人の同意が必要で、月額3万円の寮費も自ら賄っているそうですね。

そこが児童養護施設と異なるところです。自立援助ホームの利用は本人の意志によります。光熱費や食費などを含めた寮費も、本人が寮から働きに出て、その稼ぎで支払ってもらうのが原則です。レクリエーションもあります。コロナ禍で一部控えています。パーベキューやクリスマスパーティー、毎年秋には同じ敷地内の施設と合同で、ホームや施設を出た

OGを迎える催しも行われています。家族も含めて100人ほどのOGが帰ってきて、子どもたちと食事やゲームを楽しんでくれるんです。



清周寮で過ごす寮生たち

子どもたちはどれぐらいの期間を寮で過ごすのですか？

早くて半年、平均1～2年ですね。一人ひとり成長の速度が違うから、一律ではありません。外に出て一人で暮らしていくには経済的な安定が欠かせません。どれぐらい仕事が続いているか、預貯金は十分かといったことを、面談で尋ねたり、日々の見守りの中で把握したりしながら、判断しています。

ホームで暮らしながら、自立に向けて働いたり、学校に通ったりするのは大変そうですね。

ですから、全国のホームの子どもたちにとって、就学や資格取得を支えてくれる「まなび応援金」は貴重なのです。働きながら学ぶのは大変です。一部公的な支援もありますが、「まなび応援金」を得られれば、働く時間を減らすことができます。その分を学びに充てられるんです。実際、応援金を得て高校を卒業し、大学などに進んだ子どもたちがいます。また、高校中退で、なかなか正社員になれない中卒の子どもたちが、高卒認定試験に挑戦する支えにもなっています。「まなび応援金」は子どもたちの未来につながっているのです。

虐待を受けた子どもらは、「自分は誰かに支えてもらえる存在なのだ。誰かに頼ってもいいのだ」という感覚を抱きにくいと聞いたことがあります。

自立援助ホームでは「あたり前の生活」「主体性の保障」「退去者支援」の3点を大切にしています。安心・安全を得られる居場所があり、自分で考え、失敗も通して物事を学んでいく営みを保証されることこそが、自立につながるからです。虐待家庭では、安心・安全も本人の意志も大事にされ

ていません。もう一つの「退去者支援」とは、「ホームを出ても、いつまでも、あなたがどんな状況であろうとも、スタッフは関わり続ける」という意味です。退去者側から関係を切らない限り、私たちからは絶対に関係を断ちません。清周寮でも、経済的な安定に加え、そうした関係が子どもたちとスタッフとの間に紡がれているかを、卒寮の判断材料にしています。

「まなび応援金」は、多くの人の善意によって運営されています。「社会には自分を支えてくれる誰かがいる」といった気持ちを育むことにも一役買っているかもしれませんね。

寮の子どもたちには「あなたは一人ではない。社会には見てくれている人たちがいる」と話しています。スタッフだけでなく、職場や学校の人たち、寄付して下さる皆さまも「支えてくれる存在」です。子どもたちは寮を出て、さまざまな社会経験をしていく中で、そのありがたみをより感じてくれているようです。

松本さんは駆け出しの3年間、清周寮で働き、2021年4月、二十数年ぶりに寮長として「原点」に戻ってきたと伺いました。意気込みと、「まなび応援金」を通して支援して下さる方へのメッセージをお願いします。

感慨深く感じています。これまで積み上げてきたものを子どもたちに還元し、卒寮後も「ここは実家だ」と感じて帰ってこられるような温かい場所にしたいと思っています。みなさまのご支援には感謝しかありません。清周寮ばかりでなく、全国には、悩み、苦しみながらも自立に向けて頑張っている子どもたちがいます。自立援助ホームやそこで暮らす子どもたちのことを、もっと知り、広め、応援を続けていただければ嬉しいです。

## アルバイトしながら夜間の学校に通う寮生の日

6:20～	起床・朝食
6:50～	出勤
8:00～	勤務先で仕事
14:00～	退勤
15:00～	寮に戻り通学準備/勤務先から行くことも
16:00～	登校(夕食は給食が弁当持参)
22:00～	寮に戻る
23:00～	消灯・就寝準備
24:00～	就寝

※曜日や、学校に通っているか否かなどによってスケジュールは異なるので、上記は一例

## まなびを応援する輪を広げるために

### 虐待からの回復

自立援助ホームや子どもシェルターに入居する子どもの多くは、小さいときから虐待を受け続けてきたなど、厳しい養育環境を経ています。

虐待は、その環境から逃れることで、精神的な苦しみや体の不調などが終わるものではありません。意思や存在を踏みにじられ、価値のない存在だとされた無力感をぬぐい去ることは容易ではありません。経済的なうしろ盾のなさや将来への不安も感じるでしょう。

まなび応援金の対象年齢が15～29歳までと幅広いのは、虐待からの回復には時間がかかるためです。

ホームでは指導やしつけよりも、自尊心を育むための受容的・支持的な関わりを大切にすることが運営指針に定められています。

基本的な生活習慣や金銭管理、生活技術を獲得する支援も行いますが、それ以上に大人との信頼関係を築くことが優先です。安心して安全な生活を過ごし、本人が一步步進むのを支えています。

### 「遅れ」を取り戻したい

2021年度に応援金を受けたゆずかさん(仮名)は、家庭環境により義務教育を修了できませんでした。自立援助ホームに入所後、2年遅れで夜間中学校を卒業し、高校に入学。アルバイトを掛けもちしながら、遅れた期間を取り戻したいと努力し、およそ半年で、高卒認定試験に合格しました。そして、22年4月からは、大学生として同年代の友人と机を並べています。

### 規定の変更

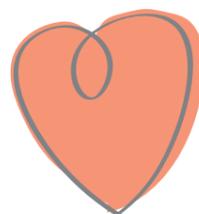
実は、ゆずかさんは、これまでのまなび応援金の規定では、給付の対象外でした。高校を中退した場合はその期間の応援金は給付しないと定めていたためです。

私たちは、まなび応援金運営委員会に諮り、高卒認定試験に合格し、未来をひらくために中退するゆずかさんのような方にも給付できるように規定を変更しました。

### 「努力」がひらく

ゆずかさんの努力に敬意を表するとともに、その頑張りがまなび応援金の制度をより良くしてくれたことに、私たちは感謝をしています。

これからも、困難な中で「学びたい」と努力する子どもや若者のために、彼ら彼女らの声に耳を傾け、ご支援くださるみなさまとともに取り組んでまいります。



## — ご支援・ご声援をありがとうございました —



2021年度  
自立援助ホーム・子どもシェルター  
まなび応援金 事業報告書

2022年6月15日発行

発行者 社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団

執筆協力 河井 健

デザイン・イラスト かえるぐみ